



# 全国学力・学習状況調査結果報告「前期課程」

## 教科に関する調査の結果

### 県・全国平均との比較

本校は少人数のため、「平均」という観点からのみ結果を考察し、学級全体の傾向をつかむことは難しいと考えます。児童一人ひとりの結果に目を向け、それぞれの課題を改めて確認し、学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思っております。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語A	△	△
国語B	○	○
算数A	△	△
算数B	○	○
理科	◎	◎

※Aは、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。  
 ※Bは、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。  
 ※平均を上回っている ◎  
 平均をやや上回っている ○  
 平均をやや下回っている △  
 平均を下回っている ▲



### 国語A、国語B

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については、他の問題と比べて高い正答率でした。国語の授業のみならず、日常生活において、多くの人と関わる場や、これまでの様々な体験を通して、相手や目的、場面、状況に応じて適切に話す力が育っていると考えられます。「読むこと」については、情報を整理しながら読み取ることに苦手な傾向が見られます。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については正答率が低く、課題として捉えています。長い文においても主語を正確に捉え、主語と述語の関係に注意しながら正しく文末表記できるようにしていきたいです。文章中の漢字と同じ使われ方をしている漢字を選択する問題では、同じ発音で形が似ている漢字に戸惑い、正しく選択できなかったことがうかがえます。ノートや日記、作文において、日頃から既習した漢字を積極的に使いながら文章を書いていくことを、より意識していく必要があります。

「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」、「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」については、低い正答率でした。どちらも満たさなければならない条件が多く、捉えきれなかったため、全てを網羅した文章を書けなかったことがうかがえます。また、条件を満たすために読まなければならない文章が長いため、内容を十分に読み取れていないこともうかがえます。

### 算数A、算数B

①除数が小数になっている単位量あたりの量を求める問題、②2つの混み具合を比べる式の意味について、正しい説明を選ぶ問題の正答率がやや低い結果でした。どちらの問題も単位量あたりの量を求めるという点が、共通しています。立式の際に言葉の式を積極的に用いたり、自分が求めた答えが何を表しているのかを言葉で表現したりする練習をすることで、わられる数とわる数の関係や式や商の意味についてきちんと理解できるようにしていきます。

③図形の構成要素や性質を基に、集まった角の和が360度になることを条件に沿って記述する問題、④輪飾りに使う折り紙の輪の色の規則性を解釈し、30個目に使う色を予想する問題の正答率がやや低い結果でした。①については、答えていること自体は合っている問題の条件に合っていないものが多く見られました。そこで、普段の授業から、リード文や特定の言葉を使う条件をつけてまとめを書

き、内容を十分に読み取れていないこともうかがえます。

くことで、そのような力を高めていきたいと思ひます。②については、実験を通して法則性を見つたり、予想を立てたりする学習機会を増やすことで、必要な情報を選び、それらに関連づける力を付けていきたいと思ひます。

## 理科

①より妥当な考えをつくりだすため、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうかをみる問題、②乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できるかどうかをみる問題において、やや正答率が低くなりました。①については、実験結果を基に分析し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述したり、口頭で説明する時間を授業の中で設定したりすることで、聞き手を意識した説明ができる力を付けていきたいと思ひます。②については、ものづくりの活動において、目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基づいた学習活動となるように授業の充実を図ってきたいと思ひます。

## 児童質問紙に関する調査の結果

### 学校生活

『将来の夢や目標を持っていますか』に対して「当てはまる」と自信をもって回答している子どもが 90%強、『人の役に立つ人間になりたいと思ひますか』に対して「当てはまる」、「どちらかといへば、当てはまる」が 100%でした。一方、『自分には、よいところがありますか』に対して「当てはまる」と自信をもって回答している子どもの割合が、20%強でした。将来に素敵な夢や目標を持ちながらも自分に自信が持てず、力強く第一歩を踏み出せないでいる子どもが多いと推察することができます。失敗を恐れず、まずはやってみること、そして、成功体験を積み重ねることによって自信が持てるよう、様々な活動場面で声をかけ、サポートしていきたいと思ひます。ご家庭でも、よいところを見つけた際は、積極的に褒めてあげてください。



### 学習

『学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか』に対して「30分以上」と回答した子どもが 15%ほど、「10分より少ない」が 65%ほどでした。全国・県平均と比較すると、読書時間が少ないことが顕著に表れています。学校においては、家庭学習における音読や家庭読書の日の設定、伊豆市読書百選への取組、必読書の読破、保護者やボランティアによる読み聞かせなど、読書活動を引き続き推進していきます。

『算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考へますか』に対して「当てはまる」と回答した子どもが 60%弱、『算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思ひますか』に対して「当てはまる」との回答が 90%強でした。その他の算数に関する回答結果からは、算数の学習に対して肯定的に捉えている割合が多いことがうかがえます。

『理科の勉強は好きですか』に対して「当てはまる」と回答した子どもは 80%弱、『理科の勉強は大切だと思ひますか』に対して「当てはまる」との回答が 80%弱など、理科に関する回答結果からは、理科の学習に対して肯定的に捉えている割合が多いことがうかがえます。一方、『将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思ひますか』に対して、「当てはまる」、「どちらかといへば、当てはまる」と回答した子どもがひとりもいませんでした。キャリア教育との連携を図り、子どもたちの職業に対する視野を広げていきたいと思ひます。

### 保護者・地域

『放課後に何をして過ごすことが多いですか』に対して「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」が 65%程度でした。『週末に何をして過ごすことが多いですか』に対して全国や県と比較して顕著なあらわれがあったのは「家で勉強や読書をしている」が 35%ほど、「学童に参加している」が 30%弱、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」が 60%弱、「家族と過ごしている」が 50%、「友達と遊んでいる」が 40%でした。

『地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか』に対して「参加したことがある」と回答した子どもは 15%ほどでした。清掃活動や資源回収などに積極的に取り組んでいた姿を鑑みると、ボランティア活動に興味関心がないわけではありません。今後、前期課程の子どもたちがボランティア活動をする機会を、積極的ににつくってきたいと思ひます。

